

多文化共生の今を知る

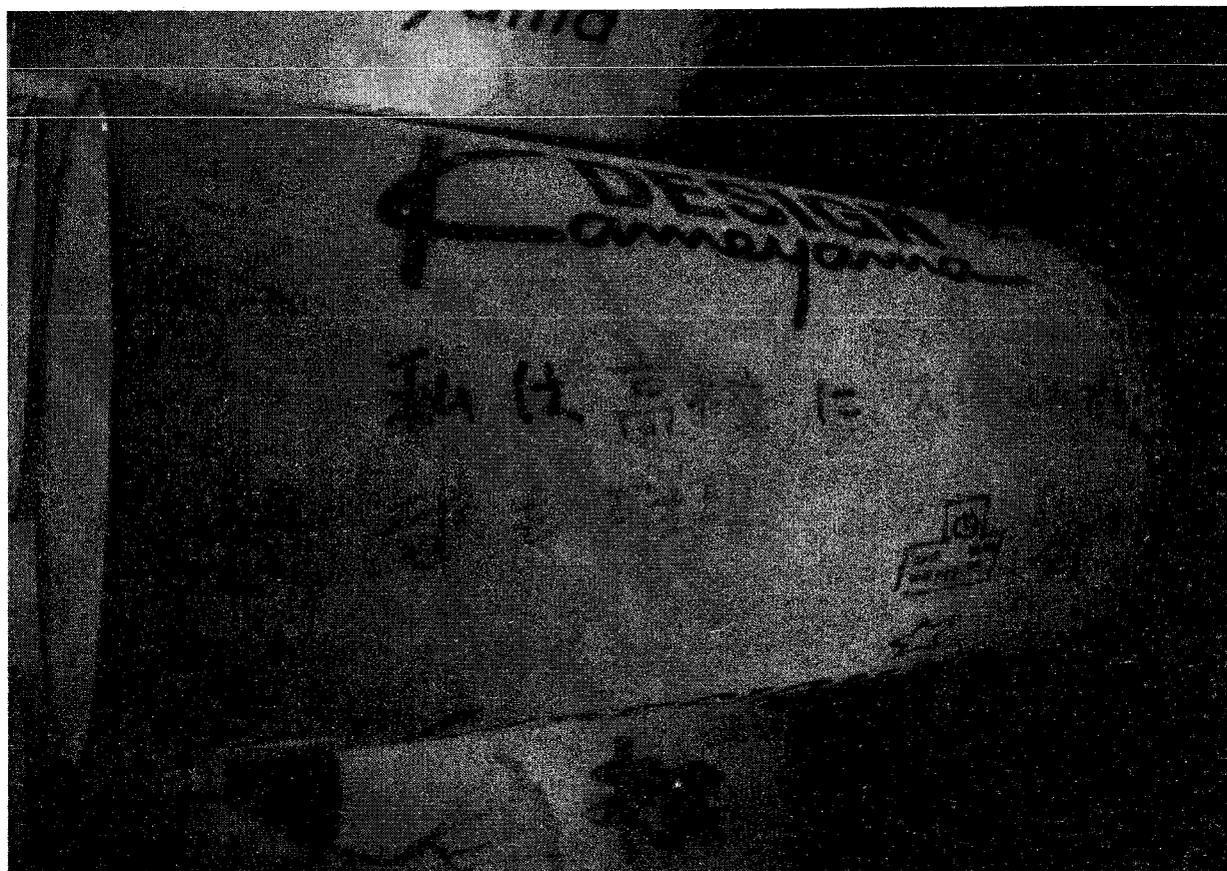
mingle

みんぐる

Vol.33

2010

12月号



キャンドルに寄せた、フリースクール生のメッセージ（記事は3ページ）

たぶんかフリースクール 社会見学 in 茨城	1
「FITチャリティーラン2010」に参加しました	2
職場体験に行きました・キャンドルメッセージを書きました	3
最近の活動報告 親子日本語クラス 学習支援・子どもプロジェクト	4
子どもの声「国境を越えた友情」 ボランティアの声「子どもパワー」	5

たぶんかきょうせい とうきょう 多文化共生センター東京とは…

たぶんかきょうせい とうきょう はんしんあわじだいしんさい さい がいこくじんひさいしや じょうほうていきょう おこな たぶんかきょうせい
多文化共生センター東京は、阪神淡路大震災の際に外国人被災者に情報提供を行った「多文化共生センター」
の東京事務所として2001年4月に開設。2006年4月には多文化共生センター東京として独立し、同年5月にはNPO法人と
して認証されました。外国にルーツを持つ子どもたちへの教育事業を中心に、子育て支援等のファミリーサポート事業、
人材育成や情報提供など多文化共生を広める事業を行っています。

わたし りねん 私たちの理念

■**基本的な人権の尊重**…「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的な不公平によって、誰もが等しく持つ権利が
損なわれる不正を是正する。

■**少数者への力づけ**…自分の文化や言語を享受できる環境づくりや、安心して自分らしくいられる居場所づくりに
より、少数者自らが自分自身を支えていく。

■**社会へのアプローチ**…多数者である日本人が少数者の状況や、多文化共生社会の意味・大切さ(大変さ・楽しさ)
を理解し、日本人・日本社会自身が変わる。

かつどうないよう 活動内容

<外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業>



たぶんかフリースクール

外国から来た子どもたちが毎日通え、日本語や教科を
勉強する学び場を提供しています。火曜日～金曜日
午前・外国から荒川区内に来たばかりの中学生
昼…15歳を超えて来日し、日本の中学校に入らず、
どこにも学ぶ場のない子どもたち
夜…昼間は小・中学校に通う子どもたち

きょういく しんがくそうだん 教育・進学相談



進学・編入など教育に関する相談に、
電話や来所に対応しています。また「日本語を母語とし
ない親子のための高校進学ガイダンス」を、多言語(6
言語)で、多団体と実行委員会形式で開催しています。

がくしゅうしえん こ 学習支援・子どもプロジェクト



主に高校進学を目指す子どもたちへ
ボランティアベースで教科や日本語の学習支援と、
アクティビティ等による居場所づくりを行っています。
■活動日：毎週土曜日3:30～5:30

きょういく かん ちょうさかつどう 教育に関する調査活動



東京に暮らす外国にルーツを持つ子ども
たちに関する教育実態調査を行っています。

がくしゅうしえん こ 学習支援・子どもプロジェクト



主に高校進学を目指す子どもたちへ
ボランティアベースで教科や日本語の学習支援と、
アクティビティ等による居場所づくりを行っています。
■活動日：毎週土曜日3:30～5:30

<外国人の家族と子育て支援事業>



おやこ にほんご 親子日本語クラス

小学生以下の子どもと外国から来た親を対象に、生活
に必要な会話や読み書きをボランティアと一緒に学ぶ
教室を開いています。
■活動日：毎週土曜日 1:00～3:00

<多文化共生に関する人材育成・情報提供事業>

たぶんかきょうせい じんざいいくせい 多文化共生のための人材育成



多文化共生に関する研修への講師派遣や、
活動に関わるボランティアやフリースクール講師等を
対象とした研修会を行っています。

じょうほうていきょう こうほう 情報提供 (広報チーム)



本誌「mingle」(年4回)、会員へのメールニュース「多文化
だより」(月1回)、メールマガジン「多文化News from Tokyo」
(月1回)等を発行しています。■活動日：随時

ぼらんてあ ぼしゅうちゅう ボランティア募集中! (裏表紙へ)

現在、子どもプロジェクト・親子日本語クラス・広報チ
ームでは特にボランティアが不足しています!

フリースクール

社会見学 in 茨城



夏がすぎ、秋がきたと思ったら、一気に冬の気配です。
たぶんかフリースクールではそろそろ受験シーズンのはじまりです。

生徒たちはこの秋、はじめて模擬試験を受けました。
秀困気に圧倒され結果に一喜一憂し、彼らの気持ちのなかでも受験が現実的になってきたようです。

そんな時期を前に、10月24日、昨年に引き続きUBSグループの支援を受けて社会見学に行ってきました。生徒56名、講師10名にスタッフ5名、UBSのボランティアの方にもご参加いただき、総勢72名で2台のバスに乗り込み茨城方面へ。

最初はつくばにある産総研の地質標本館へ。色とりどりのきれいな鉱石や、地球の歴史が感じられる化石などを見学しました。日本列島の成り立ち、地震の起きるメカニズムなどをみんな熱心に学びました。

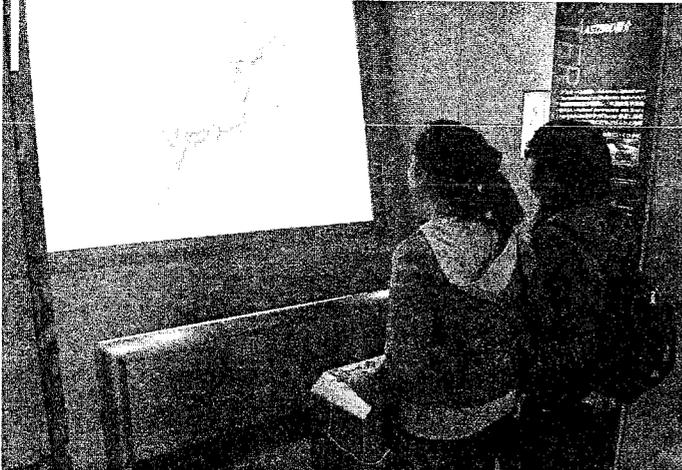
その後、ひたち海浜公園へ。まずはみんなでコスモスの花やコキアの木が色づく景色を眺めながら散歩をしました。

それからお待ちかねの自由行動です。園内には広い芝生や、乗り物やゲームもあります。観覧車やコースターに乗るグループ、景品があたるゲームで家族へのお土産を狙う子、もってきたボールで汗をかくほど遊びまわる子たちもいました。

天気はあまり良くなかったのですが、まるで待っていてくれたかのように、雨が降り出したのは帰りのバスに乗ってからでした。帰り道は渋滞していて少し時間がかかったのですが、その間バスの中はカラオケで盛り上がりました。

生徒たちはみんなこの社会見学を楽しんでくれたようです。1年という短い期間しか共に学ばない彼らにとって、きっとたぶんかフリースクールでのいい思い出になったこととおもいます。

UBSグループ様、ありがとうございました。
秋のイベントも終わり、これからはしばらく勉強一色になります。生徒たちにとっては大変な時期ですが、この冬を越え、みんな笑顔で春が迎えられようがんばってほしいと思います。



日本列島の成り立ちを学ぶ子ども



勉強の後、汗をながす子どもたち

「FIT チャリティーラン 2010」に参加しました



11月7日、秋晴れの日曜日、国立競技場と神宮外苑周辺道路で開催された「第6回FIT チャリティーラン2010」に参加しました。このイベントは、金融関係企業50社余りが、社会的な認知不足等の理由で十分な資金を確保できないNPOへの寄付によって社会貢献し、NPO関係者も含めた参加者が短距離マラソンやウォーキングで楽しく汗を流すといった趣向です。

このたび支援先NPOの一つに多文化共生センター東京が選ばれたのです！今回はランナー、ウォーカー、ボランティアとして総勢6,716人が参加し、寄付金の総額は、過去最高に上ったそうです。

<http://fitforcharity.org/ja/>

9時半ころ最初のプログラム「10キロラン」がスタート。『多文化』からも4名ほど参加しました。数百人が走る国立競技場のトラックは、応援席から見ても、かなり迫力がありました。10キロランが終わったあたりからブース前の人通りも多くなってきたので、「外国から来た子どもたちの支援をしているNPOです」とチラシを配りながらアピールします。立ち止まって話を聞いてくださる方も、ちらほらいました。

5キロランも終わった11時台には選手の皆さんもブースに戻ってきました。さらにPRのすそ野を広げるべく、各企業の応援席にもお邪魔しました。『多文化』の営業力が試されます。興味を持ってくれる方とそうでもない方がいらっしやいましたが、特に家族連れの方はよく耳を傾けてくれました。

外国の方にも、ドキドキしながら英語で説明すると「Thanks, I'll read it!」とチラシを受け取ってくれて、嬉しかったです。結局、用意したチラシ600枚は、全て会場内で配ることができました。何人かの方からは寄付もいただきました。



2.5キロウォークやKID'S SPRINTは和やかな雰囲気での終わり、最後は表彰式とラッフルくじの抽選会です。『多文化』の代表王 [] がそれぞれ優勝選手を表彰する役を務めさせていただきました。多文化共生センター東京を支援先に選んでいただいた方々、寄付をしていただいた方おひとりおひとりに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

キャリアデザイン1

はたら 働くってどんなこと? ~職場体験に行ってきました~

たぶんかフリースクールは、^{べいこく}米国・^{ざいだん}Gap財団からも^{しえん}支援を受けています。^こ子どもたちがよりよい^{みらい}未来を^き切り拓けるよう、^{ひら}キャリアをデザインする^{じぎょう}事業への^{じよせい}助成です。^{ざいだん}財団からの^{じよせい}助成だけでなく、^{きぎょう}企業としてのGap ^{はたら}ジャパン、^{かたがた}そこで働く ^{はたら}社員の方々からも^{しえん}さまざまな^{しえん}支援を受けています。

^{こんかい}今回はその^{いっかん}一環として、^{にん}8人の^{せいと}生徒がGap ^{みせ}のお店へ^{しよくばたいけん}職場体験に行きました。

^{がつ}11月5日、^{にち}正午に^{しゅうご}集合した^{しんじゅく}生徒たちは^{ほんしゃ}新宿にあるGap ^{たが}の本社で^みまずは^{たが}トレーニングセッションです。^みお互いの^み身だしなみを^みチェックしたあと、「Gap ^{やくそく}の4つのお約束」を^{おし}教えていただきました。それは「Friendly,Helpful,Knowledge,Quick」で、^{シチュエーションカード}シチュエーションカードを^{つか}使って^{たの}ゲームを^{まな}しながら^{たの}楽しく^{まな}学びました。

それから^{いよいよ}いよいよ^{みせ}お店に^{しよ}した。^{しよ}渋谷と^{しんじゅく}新宿の^{てんぽ}店舗の^{やく}バックヤードで^{じかん}約2時間、^{かた}Gap ^{しどう}の方の^{しどう}指導のもとに^{ようふく}洋服を^たたたんだり^わサイズごとに^わ分けたりという^{さぎょう}作業をおこないました。

その後は^{ほんしゃ}本社に^{もど}戻って、^{ようふく}洋服は^{つく}どのように^{じぶん}作られて^て自分たちの^{とど}手まで^{とど}届られるのかを^{だんかい}デザインの^な段階から^な流れを^お追って^{べんきょう}勉強しました。^{つか}スクリーンを^{つか}使って^{せつめい}のていねいな^{えいご}説明に^{つうやく}英語の^い通訳も^い入れていただき、^{きょうみぶか}みんな^き興味^き深く^き聞いていまし^たた。^{さいご}最後は^{こうりゆうかい}交流会まで^{ひら}開いていただき、^{せいと}生徒たちにとっての^{きちよう}貴重な^{ついでち}一日が^お終わりました。^{しよくばたいけん}職場体験で^{せいと}生徒たちは「^{はたら}働くこと」の^{たいへん}大変さと^{たいせつ}大切さを^{かん}感じてくれたようです。

^{しごと}仕事をするのが^{はじ}初めてですべてが^{しんせん}新鮮でした。^{さいしょ}最初は^{とても}とても^{むずか}難しいと思^{おも}ってましたが、^{えがお}Gap ^{きんちよう}のみなさんの^{えがお}笑顔が^{きんちよう}緊張を^ふ吹き飛ばしてくれました。^{しごと}Gap ^{たの}のみなさんが^{しごと}仕事は^{たの}楽しいことだと^{おし}教えてくれました。

^{しごと}仕事は^{たいへん}とても^{むく}大変でした。^{ふく}服を^はたた^は畳んで、^はシールを^は貼って、^{はこ}箱に^お置き^おました。^{わたし}私の^{かた}肩は^{いた}痛くなり^おました。^{たの}でも^{たの}楽しかったでした。

^{つか}疲れてても^{えがお}笑顔を^{わす}忘れないでとい^{おし}うことを^{おし}教えてもらいました

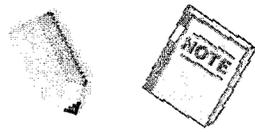
^{ざいだんさま}Gap財団様、^{さま}Gap ^{さま}ジャパン様、^{きちよう}貴重な^{きかい}機会を^あありがとうございました。

キャリアデザイン2

じぶん しょうらい かんが 自分の将来を考えよう~キャンドルメッセージを書きました~

その後、^こセーブ・ザ・^こチルドレン・^こジャパンが、^{ひんこんもんだい}子どもの^{かいけつ}貧困問題の^{かいけつ}解決へ^{にん}むけて「1000人の^{にん}キャンドルメッセージ」と^{もよお}いう^{おこ}催しを^{おこ}行ないました。^{ぜんこく}全国から^こ子どもたちが^{ゆめ}夢を^かキャンドルに^か書いて^{とど}届け、^こたぶんかフリースクールからも^{にん}33人が^{にん}さまざまな^{ことば}言葉や^え絵で^{とど}メッセージを^か届けました。^{がつ}11月19日には^よ代々木公園で^あキャンドルに^あ明かりが^{とも}灯され、^あGap ^{とど}ジャパンから^{こうつうひ}交通費の^{しえん}支援を受けた^{にん}8人の^{せいと}生徒が^{あし}足を^{はこ}運びました。^{おお}多くの^こ子どもたちの^{ゆめ}夢を知ることで、^{しょうらい}みんなの^{しょうらい}将来^し設計につなげてくれ^{ねが}ればと願っています。

さいきん かつどうほうこく 最近の活動報告



あやこ 親子プロジェクト

～「ひと押し」で学べることもある～

がくしゅうしゃ かつ どう ほう こく かんじ
学習者とボランティアが囲む机の上に、漢字の
書かれた厚紙を並べて、漢字の復習をしました。
組み合わせると、どんな単語を作れますか？

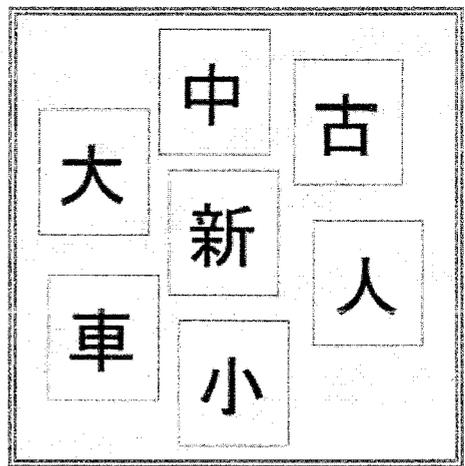
いちまい かみ て く あ いちまい
一枚の紙を手がかりに、組み合わせられる一枚を
さが だいしやう おとな しんじん
探します。まずは「大小」「大人」「新人」など。そして、
しんしゃ こた さん も じ ちゆうこしゃ
「新車」という答えをきっかけに、三文字の「中古車」。す
ると、『ふるしんぶん』は…』とつぶやくと、『聞』があれば『古新聞』が作れますね』といったやり取りが。

カードがあること、皆で机を囲むこと、ひと言を口に
することで、たくさんの単語ができました。

「カードを繰り返し使うなら、ラミネート加工がいい」
という意見もありました。ラミネート加工のひと手間で、

がくしゅうかんきやう ととの ちい お たぶんか
学習環境を整えられます。小さなひと押しが多文化
きやうせい ささ さいにんしき
共生センターを支えていると、再認識しました。

ちなみに、気になった回答は「古男」と「古女」。意味は
わかります。



こ 子どもプロジェクト

こここのところ毎回、満員御礼の子どもプロジェクトの
がくしゅうしえん にん い あ かだい
学習支援。3、4人であれこれ言い合いながら課題をする
せいと となり もくもく もんだい と こ
生徒たちのすぐ隣に、黙々と問題を解く子が…という
ばめん めずら
場面も珍しくなくなってきました。そのため先生と子ども
のマッチングや配置を工夫しています。5つほどある教室
を自習部屋・マンツーマン部屋・集団授業部屋などに
わ みんな かいてき べんきやう
分け、より皆が快適に勉強できるようにしています。

あき ふか じゆけん ふたも じ いしき
秋が深まるにつれ、「受験」の二文字も意識しなければな
りません。最近子どもプロジェクトに合流した子どもの中
には、受験生もいます。日本に来て間もない子どもにいか
に じゆけんたいせい はい まいとしこ
受験態勢に入ってもらうかは、毎年子どもプロジェクトの
ひとつの課題となっています。一方、以前から来ている受験生
は準備万端かという、ぎやく ききかん た せいと
のが現実。特に土曜日に友達に会える「居場所」を求めて

き こ けいこう つよ
来ている子にその傾向が強いです。こちらは、ボランテ
ィアの私たちとも付き合いが長く、時には生意気も言っ
てくるような仲なので、その信頼関係を土台に厳しく指導して
いくことになりそうです。せいと しゅっしんち いぜん
生徒の出身地も、以前から
おお ちゆうごく ほか
多かった中国やフィリピンの他に、ベトナム・インド・モ
ンゴルなどと多様化しています。あらかわく
荒川区の「ハートフル」(※)
に通いながら、どようび こ さんか
土曜日の子どもプロジェクトに参加している
せいと まいしゆうかくだい み
生徒もいます。毎週拡大している(ように見える)プロジ
ェクトの風景に、改めて「多文化」が地域の中で果たして
いる役割の大きさを感じています。

(※)「ハートフル」：たぶんかフリースクールが、かよう
きんようび おこな あらかわくない しょうちゆうがくせいむ にほんご
金曜日に行っている、荒川区内の小中学生向け日本語
指導。

こっきょう こ ゆうじょう 国境を越えた友情

なつやす たぶんかきょうせい とうきょう き
夏休みに多文化共生センター東京へ来て、もう
やくさんかげつ かん いろいろ くに ともだち
約三ヶ月なりました。この間に色々な国の友達ができま
した。ともだち いっしょ かえ べんきょう
友達と一緒に帰ったり、勉強したりするのが
たの にほんご べんきょう いろいろ
楽しいです。日本語を勉強することだけではなく、色々
くに ひと いろいろ くに ぶんか ふ
な国の人がいるので、色々な国の文化にも触れることが
でき
出来ました。

ひと みな やさ き ひと
ここの人は皆が優しく、フィリピンから来た人はいつ
わたし ご おし せんせい ぶんしょう
も私にフィリピン語を教えてください、先生も文章
わ
が分からないときなどいろいろなことを教えてください
さいしょ にほんご ぶんぼうなど まった わ
す。最初は日本語の文法等が全く分からなくて、いつ
ふあん いま かんたん さくぶん
も不安でしたが、今は簡単な作文ができるようになりました。

子どもの声

たぶんかきょうせい とうきょう ぎょうじ
また、多文化共生センター東京ではたくさんの行事が
あります。せんしゅう にちようび がつ にち しゃがけんがく
先週の日曜日・10月25日は社会見学で、つく
ばの産総研と、常陸海浜公園に行きました。産総研では、
きれいな石(鉱物標本)をたくさん見ました。公園には、
きれい はな ひろ うみ あき くうき きも
綺麗な花と広い海があり、秋の空気もとても気持ちのよい
ものでした。の もの の しやしん と
乗り物にたくさん乗り、写真もたくさん撮り、
みんなとも仲良くなりました。

わたし いま こうこう
私たちは今、高校
じゅけん む いっしょうけんめい
受験に向けて一生懸命
べんきょう
勉強しています。
わたし しぼうこう
私はみんなが志望校に
う いの
受かるよう祈っています。

こどもパワー

げんざいだいがく にほんごきょういく せんこう
現在大学で日本語教育を専攻しています。その
じゅぎょう にほんご おし きかん あつか
授業で、日本語を教えている機関を扱うものがあり
たぶんかきょうせい し だいがく
多文化共生センターを知りました。それまで大学の
りゅうがくせい にほんご おし きかい こ
留学生には日本語を教える機会があったもの子ども
にほんご おし けいけん まった
に日本語を教える経験は全くなく、どうしたらよいか
さいしょ ふあん
最初は不安でいっぱいでした。最初はだいがくせい
こと こ すがた とまど かん おし
異なる子どもの姿に戸惑いを感じ、うまく教えること
ばかり考えていたような気がします。しかし、子どもた
ちと接していくうちに勉強を教えることだけが重要
かな
なのではないと感じるようになりました。

べんきょう おし たいせつ
もちろん勉強を教えることは大切なことですが、

ボランティアの

声

ふく こ
それも含めて子どもをまるごとサポート
していくことが必要なのではないか、と
かん
感じています。

こ 子どもたちが成長する様子を見たり、子どもたちと
せつ わたしじしん こ
接することで私自身も子どもたちからパワーをもらっ
ています。こんご かんか
今後このような子どもたちと関わっていき
たいと考えています。